

都城工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語
科目基礎情報					
科目番号	0028		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	建築学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:4 後期:2	
教科書/教材	Grove English Communication II (文英堂) 9784578281221, Grove English Communication II Workbook (文英堂) 9784578287650, Data Base 4500 5th Edition (桐原書店) 9784342013232				
担当教員	松川 兼大				
到達目標					
1. 英検準2級～2級程度の英文の大意を把握し、必要な情報を見つけることができる。 2. 英語表現や文法に関する知識にもとづいて、一文ごとの意味を正確に取ることができる。 3. 汎用性の高い語句を中心に1年次よりも着実に語彙を増やし、総合的な英語力の土台とすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	初見でも教科書と同程度の英文であれば、辞書を使わずに全体の意味をほぼ正確に把握できる。		初見でも教科書と同程度の英文であれば、辞書を使うことで全体の大まかな意味を把握できる。		初見でも教科書と同程度の英文であれば、辞書を使うことで全体の大まかな意味を推測することができる。
評価項目2	初見でも教科書と同程度の英文であれば、辞書を使わずに自分の必要とする情報を探し出すことができる。		初見でも教科書と同程度の英文であれば、辞書を使うことで自分の必要とする情報を探し出すことができる。		初見でも教科書と同程度の英文であれば、辞書を使うことで自分の必要とする情報が書かれている箇所を推測することができる。
評価項目3	複雑な文の中で用いられている注意すべき文法事項が何であるかを理解でき、正確に意味を取ることができる。		複雑な文の中で用いられている注意すべき文法事項に気づき、大まかな意味を取ることができる。		ヒントが与えられれば複雑な文の中で用いられている注意すべき文法事項に気づき、大まかな意味を推測することができる。
評価項目4	初見でも教科書と同程度の英文であれば、辞書を使わずに80%程度の単語やイディオムの意味が理解できる。		初見でも教科書と同程度の英文であれば、辞書を使わずに60%程度の単語やイディオムの意味が理解できる。		初見でも教科書と同程度の英文であれば、辞書を使わずに40%程度の単語やイディオムの意味が理解できる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	さまざまなトピックの英文を継続して読むことで、語彙を増やすとともに英文読解に必要な文法事項を身に付け、一文ごとの正確な意味および文章全体の大意を把握できる力を養成することを目的とする。				
授業の進め方・方法	1. しっかり予習をしたうえで毎回の授業に出席すること。 2. 語彙に関する小テストを随時実施する。 3. 意味がわかる・わからないに関わらず、指定された語句は予習の段階でかならず辞書を使って調べること。 4. 日ごろから各Lessonの本文を音読するよう努めること。				
注意点	1. 追試験は正当な理由がある場合のみ受験が認められる。 2. 学年末の成績評価が60点未満の者は次年度に再試験を受験することができる。 3. 学年末の成績評価が45点以上60点未満の者は年度内再試験を受験することができる。				
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明／授業の導入 Lesson1 Mt. Fuji: The Pride of Japan	富士山が世界遺産に指定された文化的背景とそれに関連する問題を読み取る。SV, SVC, SVOの文型を理解する。	
		2週	Lesson1 Mt. Fuji: The Pride of Japan	富士山が世界遺産に指定された文化的背景とそれに関連する問題を読み取る。SVOO, SVOCの文型を理解する。	
		3週	Lesson1 Mt. Fuji: The Pride of Japan	富士山が世界遺産に指定された文化的背景とそれに関連する問題を読み取る。SVC (=that節) の構文を理解する。	
		4週	Lesson1 Mt. Fuji: The Pride of Japan	富士山が世界遺産に指定された文化的背景とそれに関連する問題を読み取る。第1週～第3週で学んだ文法事項を定着させる。	
		5週	Lesson2 Yes, I Do Climb	ロッククライミングというスポーツと、それに情熱を注ぐ白石阿島の挑戦について学ぶ。現在完了形の仕組みを理解する。	
		6週	Lesson2 Yes, I Do Climb	ロッククライミングというスポーツと、それに情熱を注ぐ白石阿島の挑戦について学ぶ。過去完了形の仕組みを理解する。	
		7週	Lesson2 Yes, I Do Climb	ロッククライミングというスポーツと、それに情熱を注ぐ白石阿島の挑戦について学ぶ。過去完了進行形を理解する。	
		8週	Lesson2 Yes, I Do Climb Lesson3 A Penguin Called Happy Feet	ロッククライミングというスポーツと、それに情熱を注ぐ白石阿島の挑戦について学ぶ。第5週～第7週で学んだ文法事項を定着させる。／ニュージーランドで見つかったペンギン「ハッピーフィート」の物語を読み取る。助動詞can, may, must, shouldの使い方を理解する。	

2ndQ	9週	前期中間試験、試験答案の返却及び解説	第1週～第8週の内容が理解できているかどうかを確認する。試験問題の解説およびポートフォリオの記入を行う。		
	10週	Lesson3 A Penguin Called Happy Feet	ニュージーランドで見つかったペンギン「ハッピーフィート」の物語を読み取る。助動詞＋完了形の使い方を理解する。		
	11週	Lesson3 A Penguin Called Happy Feet	ニュージーランドで見つかったペンギン「ハッピーフィート」の物語を読み取る。受動態の仕組みを理解する。		
	12週	Lesson3 A Penguin Called Happy Feet	ニュージーランドで見つかったペンギン「ハッピーフィート」の物語を読み取る。第8週および第10週～11週で学んだ文法事項を定着させる。		
	13週	Lesson4 Warka Water	エチオピアのワーカウォータータワーの役割とその利点について考える。助動詞を含む受動態の仕組みを理解する。		
	14週	Lesson4 Warka Water	エチオピアのワーカウォータータワーの役割とその利点について考える。SV00 (O=that節) の構文を理解する。		
	15週	Lesson4 Warka Water	エチオピアのワーカウォータータワーの役割とその利点について考える。SV00(O=疑問詞節など) の構文を理解する。		
	16週	前期末試験、試験答案の返却及び解説	第9週～第15週の内容が理解できているかを確認する。試験問題の解説およびポートフォリオの記入を行う。		
後期	3rdQ	1週	Lesson5 A Hidden History of Tomatoes	南アメリカ原産のトマトがヨーロッパ、北アメリカ、そして日本へと伝播していった歴史について読み取る。進行形の受動態の仕組みを理解する。	
		2週	Lesson5 A Hidden History of Tomatoes	南アメリカ原産のトマトがヨーロッパ、北アメリカ、そして日本へと伝播していった歴史について読み取る。SVO (=that節)の受動態の構文を理解する。	
		3週	Lesson5 A Hidden History of Tomatoes	南アメリカ原産のトマトがヨーロッパ、北アメリカ、そして日本へと伝播していった歴史について読み取る。SV00, SVOCの受動態の仕組みを理解する。	
		4週	Lesson5 A Hidden History of Tomatoes	南アメリカ原産のトマトがヨーロッパ、北アメリカ、そして日本へと伝播していった歴史について読み取る。完了形を含む受動態の仕組みを理解する。	
		5週	Lesson5 A Hidden History of Tomatoes	南アメリカ原産のトマトがヨーロッパ、北アメリカ、そして日本へと伝播していった歴史について読み取る。第1週～第5週で学んだ文法事項を定着させる。	
		6週	Lesson6 Iceland	アイスランドの厳しい自然と共生する文化がどのようなものであるかについて学ぶ。比較級の仕組みを理解する。	
		7週	Lesson6 Iceland	アイスランドの厳しい自然と共生する文化がどのようなものであるかについて学ぶ。①to不定詞の用法 ②it is+ (for～) +to不定詞の構文を理解する。	
		8週	Lesson6 Iceland	アイスランドの厳しい自然と共生する文化がどのようなものであるかについて学ぶ。動名詞の働きを理解する。	
	4thQ	9週	後期中間試験、試験答案の返却及び解説	第1～第8週の内容が理解できているかを確認する。試験問題の解説およびポートフォリオの記入を行う。	
		10週	Lesson6 Iceland	アイスランドの厳しい自然と共生する文化がどのようなものであるかについて学ぶ。SV (=be動詞)＋形容詞＋that節の構文を理解する。	
		11週	Lesson6 Iceland	アイスランドの厳しい自然と共生する文化がどのようなものであるかについて学ぶ。第6週～第8週および第10週で学んだ文法事項を定着させる。	
		12週	Lesson7 Which Jam Would You Like?	選択の幅をめぐる実験の方法と結果およびその考察について読み取る。関係代名詞の使い方を理解する。	
		13週	Lesson7 Which Jam Would You Like?	選択の幅をめぐる実験の方法と結果およびその考察について読み取る。SVOC (=現在分詞／過去分詞)の構文を理解する。	
		14週	Lesson7 Which Jam Would You Like?	選択の幅をめぐる実験の方法と結果およびその考察について読み取る。分詞の形容詞的用法を理解する。	
		15週	Lesson7 Which Jam Would You Like?	選択の幅をめぐる実験の方法と結果およびその考察について読み取る。前置詞＋関係代名詞の用法を理解する。	
		16週	学年末試験、試験答案の返却及び解説	第10週～第15週の内容が理解できているかを確認する。試験問題の解説およびポートフォリオの記入を行う。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	前3,前5,前7,前10,前13,後4,後8,後13
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	1	前1,前3,前5,前7,前10,前13,後4,後8,後13
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15

				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	1	前3,前5,前7,前10,前13,前16,後4,後8,後9,後13,後16
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
		英語運用能力向上のための学習		自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	2	前3,前5,前7,前10,前13,後4,後8,後13
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	2	前1,前3,前5,前7,前9,前10,前13,後4,後8,後13
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15

				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	1	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合

	定期試験	小テスト	相互評価	課題・平常点	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10	0	10	0	0	100
基礎的能力	80	10	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0